

制度見直しの救済

各政党に陳情

医薬品副作用被害救済制度問題調査への調査シート

ムレヒトのつの連絡係・のつの連絡係を取扱う所では、

昨年11月に決定した「調査事項」(のつの連絡係→参考部)

に掲げ、各政党への陳情を行つた。

血吸虫病対策 大村 透衆議院議員

今年1月への日 お忙しげになかや
つじ書類を聞いて、のつの連絡係の実
態の調査事項を熱心に聴取つて、
だいじにじがでした。大村部長は
1の連絡係の詰問資料を取つて、
バカリとの困難でない問題がたの境
境に迷つて理屈を示していただいた。

厚効省医薬品副作用被害対策室へ
やアピールして、いたたかくの連絡し
たところ、直ちに対策室から、

①誠実に対応して、②「認定」で難解しつつも
いのではない、③おまねく少しの連絡を救済するのは
最高の理みだが、現実には非常に難しく、たゞの意見表
明があつた。④連絡をしたたたいた。厚効省と「総口機
構」が国の「輸出削減の流れのなかで、基準提出製薬メー
カーを説得しながらこのごく知恵をしづつといれた軌
跡がつかがべる。

民主党難病対策推進議院連盟

(加盟店員 衆参回顧付へのり)

余長 山本 衆議院議員

事務局長 谷 博 衆議院議員

当連盟加盟店の勉強会で、のつ
の連絡係の現状と問題点および問題の
課題事項について説明せられて、いた
機会を得た。数多の連絡間じわ

たの連絡室窓のなかで、いかほのつのが周知徹底し
れておらず、その救済方法が、最近のアスベスト被石に
対して国が責任をもつて救済しようとしない方法とは
根本的に離はりがちであるとなつてはいた。(平成1

7・12・10)

共産党政策委員会 小池 異議院議員
同党衆議院議員 笠井 郷衆議院議員

救済について 本来は国がやるべきこと
ではなくかと訴え、薬事行政はキツチリ
と検討していくべきとの連絡。薬事
法改正議論に入れば、誰がやつの発症
の危険性があらじの観点から、風邪薬市
販問題にまで突き込んだ議論が必要との
ご理解をいたたいた。(平成17・12・1)

1(6) 社民党政策委員会 国部 知子衆議院議員

同党議員は、この科医としての立場から、種々の相
談に接觸をしたたたいた。

◎じつに市販薬で発症していかないかと連絡して広報する
いじが効果的ではないですか。
◎医師が完全の処置をしたとしても医療//は難起して
このだから、それを予想したファンデを準備して十
分救済されるものとしなど、医師の方からも問題にな
なれます。

◎のつのがじごく診断難連を聽いたせば救
済されたる仕組みにしていかなくて全
ての連絡を救済できません。

◎現行制度で要求される事項が詰めき
る人は「シギー」だが、誰でも発症する
病気だとじつじつをわつと議員の間に
広げてもらひにかかる。

◎発症状況をないのつがじごく診断難連の能力を教訓し
てまいりやう。 (平成17・12・15)



荒れ野に花を

SJSだよ

制度創設前患者の救済

謝金システムによる始動

0つの謝金を運営する

「NPOの救済業務委員会」において、医薬品医療機器総合機構（「総合機構」）の保健福祉事業の一環として実施された「医薬品の副作用による健康被害調査」の報告書が公表された。同報告書によれば、調査は平成17・8・1、「七四三人」が送られた。七十五名から回答があった。

救済制度創設患者の人の

この実態調査に協力（回答）した救済制度創設前患者は、「謝金」が支給されるというシステムが、坂口厚生労働大臣（当時）による発議され、現行救済システムの窓口があげられた。制度創設（昭和55・5・1）前後に關係なく全ての患者が同条件で救済を受けた。調査して来たのつの患者、および支援者が「謝金システム」の対象となる制度創設者よりの回答が2つの如きがあつたといつて報告され、落胆の色がかげやがた。」
「なぜ制度創設者への調査が、多く（医師）経由で「総合機構」のホームページの公募だけで発送され、被障害者に対する配慮と周知徹底への配慮が完全でなかつたからではないか、と無念の感が強い。

（注）当初の謝金制度は、医薬品副作用の「調査で希少な健康被害」としてのつりおよび「医療機器への調査対象とされたが、実施調査で急性脳症など十数十例が追加されたこと。

②この如きの大部分类のつりおよび「調査で希少な健康被害は、一ヶ月以内に発現され、その他のつりおよび医療機器への調査が、（①支給額は10万円程度（月額）、②支給期間は不明。（③第一回支給は100円の希望）

このように、やつと現行制度では法律が改正されない限り絶望的だった救済制度創設患者への救済が始動するに至った。これが今までのつりの患者が希求してきたものかじつか、については議論の余地はないが、長かつた救済運動の歴史からすれば、

やつと到達した一里塚として画期的な意義を持つものと確く評価されなければならないのではなかつたのか。その意味でも、支給期間が長期に継続されてもよいのが強く懇請したい。

実態調査の感想を教済

アンケートで問いかこなった諸問題は、すこし「日本経済」紙（平成18・3・17「薬の副作用、仕事も直撃」）など一般紙でも公報された。だが、患者の実態と現状ははるかに異なる。また、「総合機構」の保健福祉事業で「肝臓」が実施されていく期待したい。

文部科学省が推進する「オーダーメイド医療実現化」

「ロジックト」の一環として「オーダーメイド医療を考え」る「公報シンポジウム」が3月1日「学術総合センター」で開催された。のつの患者会、湯浅代表は、そのシンポジストとして招かれ、のつの周知徹底のため「その被害実態を説明し、オーダーメイド医療への期待を次のように訴えた。

「オーダーメイド医療により、薬を服用する結果に健康障害に陥る場合や副作用がわからぬといふことはよくあります。しかし、私たちのよつては辛つ経験をする人がなくなります。その実現を心から期待いたします。」

オーダーメイド医療とは

特定の疾患にかかりやすいとか、副作用を起こしやすいたが、個人個人のゲノム（遺伝子）情報の違つたものに、それぞれの診断法や治療薬を開発していくとする医療。現時点で約14万人の患者の協力を得て、約50種の疾患について解析に必要な数が集まつた疾患から研究が進められている。





予 告

チラシ朝日 15時～16時後の時半より
「クリスマス物語」のなかで、
川畠 感謝の挨拶が行われます。

第一部

懇親会
開会

百段以上可能なホールです。
講演して盛り上げましょう



プロセス

開会 代表あつれつ

川畠 感謝の挨拶
事業報告・会計報告
新役員の選出

質疑応答

日時 10月3日(土) 午後1時～4時半

場所 「川畠会館」 開成中学校ホール

チラシ作成
会場設営
会員登録
会員登録

平成十八年度
のつる川畠会館案内